



### 2019年度(2020年4月就職)の就職先一覧

大学院 工学研究科 機械工学群 3専攻、

工学部 物理工学科 機械システム学コース・宇宙基礎コース

2019年度機械系就職担当 花崎秀史 (S59/1984卒)

#### 1. はじめに

機械系では例年、機械システム学コース長が就職担当を兼務している。担当するのは、大学院工学研究科の3専攻(機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻)と、工学部物理工学科の2コース(機械システム学コース、宇宙基礎工学コース)である。念のために注記すると、表題の「機械工学群3専攻」は、「機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻」の総称である。就職担当としては、学生の就職活動のうち、「学校推薦」についてのお世話をしている。

なお、最近「ジョブマッチング」が大部分の企業で行われるようになり、3月に実質的な選考が始まる企業も多い。このため、企業からの就職担当への面談依頼も年々早まる傾向にあり、最近12月ごろから始まる。そのため、11月ごろに次年度担当への引継ぎが行われ、現在は、2020年度(2021年春就職)担当の西脇教授にすでに交代している。

#### 2. 経過

2019年も経団連の指針に変化はなく、ここ数年と同様、3月1日に広報活動開始、6月1日に採用選考開始であった。したがって機械系でも、近年同様、5月の連休明けに学生に学校推薦の希望先を提出してもらい、6月の選考開始に間に合わせることとなった。

この1年の経過を記すと、

2018年

11月10日 進路指導ガイダンス(2018年度の就職活動の報告、新就職担当の紹介)

2019年

2月 5日 就職説明会(1)

3月 1日 企業の広報活動開始

4月19日 就職説明会(2)

5月 7日 学校推薦の希望提出(締切日)

5月13日まで 希望調整(必要な場合)、推薦先の決定

6月 1日 推薦書送付、採用選考(面接)開始

6月以降～ 未内々定者への対応

3月～4月にエントリーし、4月末までにマッチングに合格し、5月の連休明けに、マッチング合格した企業に学校推薦の希望を出す、という学生が多かったと思われる。ただ、マッチング合格が連休明けに間に合わない学生も少なからずあり、その場合は、5月以降にマッチングを行っている企業(元々マッチング開始の遅い企業+遅くまでマッチングを継続している企業)、あるいは、現在は少数派となってしまったマッチングのない企業、などに応募していくことになる。なお、マッチングを行っている企業に、マッチングに合格せずに学校推薦をいきなり持って行っても不合格となるケースが多い。また、国家公務員の採用時期が遅いため、国家公務員との間で迷う学生も見られた。

### 3. 就職の状況

表1に、学校推薦と自由応募に分けた就職先一覧を示す。学校推薦は、「1社に専願」し、他社には行かないことを約束するものである。そのため、企業側にも責任を持った対応をお願いしている。かつて学生に混乱を生じた経験から、学校推薦か自由応募のどちらか一方のみの選択を企業側をお願いしており、多くの学生が希望する企業では、ほぼ徹底頂けている。

学校推薦の比率は、2007年度：50%、2008年度：56%、2009年度：61%、2010年度：58%、2011年度：66%、2012年度：57%、2013年度：61%と50%～60%で推移してきた後、2014年度：77%、2015年度：77%、2016年度：78%、2017年度68%、2018年度72%、今年度67%と、70%前後で推移している。

表2の業種別では、過去2年と比較すると、自動車が減り、重工、電機、計測・医療が増加している。特に電機は、少なくとも2007年以降で最も多くなっている。

#### 4. 所感

学生側の注意点について、京機短信の過去数年の就職報告(No. 323、310、295、281など)にすでに詳細に記されており、毎年ほぼ共通と考える。ここでは、それ以外で気になった点について、いくつか記しておく。

##### (1) 就職活動の時期の遅れた学生について

多くの学生は、3~4月、あるいは5月にかけて就職活動を行い、6月に内々定、というルートをとった。その一方で、8月ごろになって相談に来る学生が少なからずいたのも事実である。選考活動が早期化している現在では、6~7月には選考が終了する企業が多く、8月からの就職活動では、不利になる点は否めない。話を聞いてみると、4月で自主的に就職活動を停止していたケースも結構あった。その理由は、就職活動は少しやってみたが気に入ったところがない、そもそも就職というものに興味がないなど、就職活動に入る以前の問題がありそうな場合も多かった。こうしたことを感じた学生には、周辺の人に早めに(遅くとも5月ごろに)相談することを勧める。また、指導教員側でも、就職活動が進んでいない学生がいないかどうか注意し、早めに相談に乗って頂けるとありがたい。

##### (2) 学校推薦と自由応募

学校推薦か自由応募かに一本化を企業側にお願いしているが、面談に来られたことのない企業にはそもそも周知が難しいという問題がある。また、各企業の採用ホームページ上で、学校推薦と自由応募の両方の窓口が開いているため、学生は自由応募にもエントリーできてしまう(これは学生側の問題ではあるが)。対応を企業側にお願いしても、学校推薦への変更の誘導はお願いできるが、自由応募を排除はできないため、徹底するのは難しい。ただ、最終的には、学校推薦を行っている企業に自由応募のまま内定する例はほとんどないようではある。

##### (3) ジョブマッチングの問題

大部分の企業でマッチングが行われるようになった現在では、(かなりの企業に

ついて) 学校推薦の希望先を出す前にマッチングに合格している必要が生じており、それは4月中の合格を意味する。そのため、

1. 選考の時期が実質上、4月あるいはそれ以前、になってしまっているという早期化の問題、
2. マッチングを行っている会社の場合、マッチングに合格していないと学校推薦をいきなり持って行っても不合格が多く、学校推薦の意義自体が薄くなっている、

という2つの問題を含んでいるように思える。元々は、学校推薦によって、学生は就職活動の労力を少なくし、学業により専念できるはずだったのではないかとも思う。しかし、採用部署との相性が良いことが、企業と学生の双方にとって不可欠であるならば、その運用方法は気になるが、マッチング自体は有用なのかもしれない。

一方、マッチングが普及した結果、学校推薦の希望者数が推薦人数を超過する会社が非常に少なくなった(1、2社)ことや、6月になって面接に行った挙句に不合格になることが減った(マッチング合格+学校推薦持参で6月に100%合格の企業が大部分)ことは、良い点と言える。

## 5. 最後に

学生の就職活動に際し、OB・OGのリクルーターの方々には、大学の教育研究活動に支障のないようにご配慮頂いた上で、様々な場面でご尽力いただいたことに深く感謝いたします。提出書類から面接対策に至るまでの細部に渡ってご指導いただいた会社もあり、ありがたい限りでした。今後とも、京都大学機械系をよろしくお願い申し上げます。

表1 就職先一覧と学校推薦・自由応募の区別

学校推薦					自由応募				
企業名	合格者数	修士	学部	博士	企業名	合格者数	修士	学部	博士
パナソニック(株)	7	7			旭化成(株)	3	3		
(株)IHI	7	6	1		防衛省	2	2		
トヨタ自動車(株)	5	5			東海旅客鉄道(株)	2	2		
(株)島津製作所	5	5			西日本旅客鉄道(株)	3	3		
ソニー(株)	4	4			九州旅客鉄道(株)	1		1	
三菱重工業(株)	4	4			(株)キーエンス	2	2		
川崎重工業(株)	3	3			(株)シマノ	2	2		
(株)日立製作所	3	3			(株)豊田中央研究所	1	1		
日鉄エンジニアリング(株)	2	2			中部電力(株)	1	1		
日本製鉄(株)	2	2			(株)ゆうちょ銀行	1	1		
住友電気工業(株)	2	2			(財)電力中央研究所	1	1		
三菱電機(株)	2	2			(特)志賀国際特許事務所	1	1		
(株)デンソー	2	2			(株)リクルート	1	1		
(株)ブリヂストン	2	2			(株)アシスト	1	1		
DMG森精機(株)	2	2			(株)ニトリ	1	1		
本田技研工業(株)	2	2			(株)GSユアサ	1	1		
コマツ	2	2			大阪ガス(株)	1	1		
富士通(株)	2	2			三菱重工工作機械(株)	1	1		
(株)東海理化	2		2		三菱商事(株)	1		1	
トヨタ紡績(株)	1	1			日本電産(株)	1	1		
ヤンマー(株)	1	1			(株)博報堂	1		1	
ダイハツ工業(株)	1		1		自衛隊	1		1	
(株)豊田自動織機	1	1			(株)経営共創基盤	1	1		
関西電力(株)	1	1			キャノン電子(株)	1	1		
日本精工(株)	1	1			ジャパン マリンユナイテッド(株)	1	1		
(株)クボタ	1	1			日立グローバルライフソリューションズ(株)	1	1		
住友精密工業(株)	1	1			日鉄エンジニアリング(株)	1	1		
日産自動車(株)	1	1			Hisense(株)	1	1		
日本電気(株)	1	1			大阪桐蔭中学校高等学校	1		1	
マツダ(株)	1	1			自由応募合格者	37	32	5	0
(株)村田製作所	1	1							
(株)堀場製作所	1	1							
(株)神戸製鋼所	1	1							
(株)ニコン	1	1							
富士電機(株)	1	1							
学校推薦合格者	76	72	4	0					
						合格者	修士	学部	博士
					就職者合計	113	104	9	0
					修士課程進学(京都大学)			88	
					博士課程進学(京都大学)		6		

表2 業種別就職数の推移

(空欄はその年度にカウントしていない)

業種	企業名	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	計
自動車	トヨタ	5	8	9	8	7	4	7	6	7	4	4	9	7	85
	ホンダ	2	1	1	3	0	5	0	1	0	1	1	1	3	19
	日産	1	1	3	3	3	4	3	0	1	1	0	1	1	22
	三菱自動車	0	0	0	2										2
	マツダ	1	2	1	1										5
	いすゞ自動車	0	1	1											2
自動車部品	デンソー	2	1	1	1	3	4	0	0	0	4	4	4	1	25
重工	三菱重工	4	2	2	8	10	6	4	7	3	7	7	8	5	73
	川崎重工	3	4	7	9	7	9	9	10	4	6	3	2	3	76
	IHI	7	4	2	7	4	4	6	5	2	0	0	0	2	43
電機	パナソニック	7	4	3	3	3	5	0	3	6	3	2	9	3	51
	三菱電機	2	5	6	6	6	6	6	6	6	4	5	1	3	62
	パナソニック電工	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	0	2	9
	日立製作所	3	2	2	2	2	0	1	2	3	1	4	1	1	24
	住友電工	2	2	1	2	3									10
	ソニー	4	1	0	3										8
計測	島津製作所	5	0	1	2	2	1	2	3	2	6	4	1	2	31
医療	オリンパス	0	0	0	1	2	2	1	0	1	3	3	1	0	14
鉄鋼・材料	新日鉄住金, JFEスチール, 東レ, 旭化成, 神戸製鋼	6	2	8	2	4	7	3	6	11	8	6	10	10	83
電力		2	0	2	2	2	3	4	2	4	3	6	3	3	36
JR		5	4	5	1	1	2	2	0	2	3	3	4	3	35
国家公務員	経産省, 国交省, 特許庁等	2	2	2	2	1	2	1	4	0	3	3	2	2	26